

三十一文字で 切り取る情景

新年最初の特集は、短歌です。
短歌とは、「五・七・五・七・七」

の5句31音で表現される文芸です。歴史は古く、日本最古の歌集「万葉集」から、千数百年前には既に詠まれていたことが考えられており、時代とともに変化をしながら、いつの時代も人々の生活とともにありました。

今回、今年で50周年を迎える「大崎短歌会」を取材しました。その時々的情景や心情を感性豊かに繊細に感じられる、奥深い短歌の魅力についてご紹介いたします。新しい年の始まりに、短文章で表現される世界にふれてみませんか。

兼題「大崎のうた」

広報誌「おおさき」の表紙にパツと咲く巷ちまたにも咲く「町花」さざんか

敗戦の平壤脱出大崎に命あずけて百歳となる

前岳は雲ひとつなく青い空木々の緑が間近に見ゆる

さらさらと川は流れるおだやかな水面に浮かぶ水鳥数羽

海渡り我に吹きくる松風は青き潮風横瀬の浜に

おーおすと今朝も元気だ大崎児童わらわ大声あげて挨拶交わす

穂園 芳江

穂園 芳江

坂元つる子

坂元つる子

本後 淑子

実吉 安仁